

**四万十町文化的施設基本計画（案）意見公募の実施結果
及び公表案を修正した箇所について。**

四万十町文化的施設基本計画の策定にあたり、町民の皆様からご意見を募集したところ、8名の方からご意見を頂きました。ご意見の提出ありがとうございました。お寄せいただいたご意見を整理し、町の考えをまとめましたのでお知らせいたします。

【意見公募の概要】

1. 意見募集期間 令和元年12月20日から令和2年1月9日まで
2. 意見提出者数 8名
3. 意見件数 18件
4. 意見の内容 下記のとおり

No.	意見の内容	町の考え方
1	松葉川温泉向かいの土地を利用できないか。ホテルが近く温泉風呂との相乗効果が図れ、駐車場も完備している。	本施設は「四万十町中心市街地再生構想に基づき「旧役場庁舎跡地」を想定しています。ただ、新しい文化施設は施設間連携をサービス目標としていますので、松葉川温泉との連携の実現に向けて努力していきますのでご協力をお願いします。
2	認知症の方やその家族が集える場所づくり。古民家カフェからのスイーツお取り寄せは良いです。認知症の方にとって“食べる”ことは喜びの最たるものと思います。おいしいものを食べにということはずすんでいてくれると思います。（高知新聞2019.8.22「図書館が認知症対策支援」川崎市立宮前図書館）。 ミニコンサート、落語、囲碁などはどうでしょうか。幼稚園保育園小学校への移動図書はどうか（絵本の購入費は寄付、車は自動車メーカーの寄贈車、運転手はボランティア）	いただいたご意見を参考に今後のサービス計画・設計等で費用も考えながら検討していきます。
3	・文化的施設というネーミングが固い。何ができるのか全然わからないと周りの保護者友達も含めていました。 ・図書館等複合施設とでも言っていたらもっとみんないろんなことがイメージできたと思うが、はじめから堅苦しいネーミングでみんな何のことかさっぱり分からなくて、理解しているのはごく一部の関心している人だけだった。 ・米フェスで紙袋のお願いをしていた時中々集まらなかったのも、周りの人たちは、何のことかわかんせんでもえいがやない？役場がやるがやろうなどと言っていました。 ・年長的に堅苦しい言葉を使いたがる方も多いと思いますが、いかに簡単な言葉でオシャレでわかりやすく発信していかないと実際に子育て世代の若い親たちで、今後一番この施設の利用者として重要な方々から何の意見ももらえないです。	今回建設予定の施設は図書館機能のみならず四万十町の文化の拠点となる機能を有した施設となることから文化的施設という名前で計画を進めてまいりました。 ただ、わかりにくいというご意見については町民の皆様にご理解いただけるよう広報等に努めてまいります。また、今後は新しい施設の名前やキャッチフレーズなどについては皆様方に親しまれ、わかりやすいネーミングとなるよう公募等により検討していきますので、今後ともご協力をお願いします。
4	【図書館機能について】・電子書籍貸出しサービス 窪川・大正・十和間をドローンを使って本を配送するという記載がありましたが、地理的な問題の一部は電子書籍で解決することも検討してはいかがでしょうか。 四万十町民も利用可能な高知県電子図書館がありますが、蔵書やサービス内容などで両立できないでしょうか。	いただいたご意見を参考に今後のサービス計画・設計等で費用も考えながら検討していきます。
5	【図書館機能について】・オーディオブック貸出しサービス 電子書籍貸出しサービスに関連しますが、視覚障がい者や小さい字が読みづらい高齢者の利用が見込まれるサービスとして意義があるのではないのでしょうか。また、教材によっては英語などの語学学習にも活用できると思います。	いただいたご意見を参考に今後のサービス計画・設計等で費用も考えながら検討していきます。
6	【美術館機能について】 「独自企画のアート・プロジェクト(P17)」の具体例になるかもしれませんが、アーティスト・イン・レジデンス（※）のための制作環境整備、建物設計上の考慮点として加えてはいかがでしょうか？文化的施設単独ではなく、旧役場庁舎跡地を中心とした歴史・文化ゾーン全体として、アーティストを招聘できる環境整備（アトリエ・スタジオ、宿泊、食事など）が必要になると思います。 ※アーティスト・イン・レジデンス＝各種の芸術制作を行う人物を一定期間ある土地に招聘し、その土地に滞在しながら作品制作を行わせる事業のこと	いただいたご意見を参考に関係各課とも連携しながらにぎわいのある文化的施設となるよう検討していきます。
7	【コミュニケーション機能について】 「交流スペース」は今後の設計で決まるとは思いますが、賑やかで議論ができるスペース（キッズスペース含む）と、静かなワーキング&コスタディスペースは、区画的に分かれていますとよいと思います。	新しい文化的施設は町民のだれもが集える施設を目指しています。いただいたご意見を参考に今後の設計ワークショップ等で費用も考えながら検討していきますのでご協力をお願いします。
8	【スタジオについて】 文化的施設なので音楽も含まれると思います。したがって、子供たちが楽器の練習をしたり、中高生がバンド練習やジャズのセッションをしたりすることができるスペースが備わっているとよいと思います。スタジオが該当するかもしれませんが、美術と異なり、防音や部屋の配置などでの考慮が必要だと思います。	いただいたご意見を参考に今後の設計ワークショップ等で費用も考えながら検討していきますのでご協力をお願いします。
9	・小さな子供が気軽に本に出合える場にしてほしい。 ・ある程度、声を出しても親が気にせずいられる構造にほしい（梯原の図書館みたいな） ・ちょっとした飲食ができ、くつろぎと読書の場所をつくってほしい。また、・映画が見られるととてもうれしい	「子どもたちが自分の居場所を見つけられる場」として気軽に本に出合える場所にしていきたいと思えます。 また、本施設は「人とまちをつなぐ、コミュニティーの場」を目指しています。飲食や構造等に関して、いただいたご意見を参考に今後の設計ワークショップ等で費用も考えながら検討していきますのでご協力をお願いします。
10	・日本文化（江戸時代など明治以前の）を知る充実したコーナーを作ってほしい。 ※日本の色・絵・建築の在り方は伝統芸能の中しにしか残っておらず絶滅寸前です。 日本人が持っていた感覚を知りたいと思います。 ・日本文化に“触れる”・“思い出す”ワークショップをやってほしい。（岩絵の具で絵を描くとか、日本舞踊を踊るとか） ※（武道の本も）保育園の子供たちは着物や日本の踊りにも興味を持っています。“こども園たの”では行事の出し物で着物や扇を使って踊ったりしています。	日本の伝統文化や町内の歴史・地域文化の継承・伝承は重要と考えています。今後は文化的施設を中心として、これらに関する講座などについてもサービス計画等において検討していきます。
11	・管理運営は委託ではなく直営を希望します。	管理運営体制については今後の検討事項となります。

No.	意見の内容	町の考え方
12	・ハード整備も重要であるがソフト面での整備が重要であり、この計画を実行していくためには社会教育主事の人材育成と担当課への適正配置とその充実を望みます。 カリキュラム作成には社会教育主事が携わって作成するものと認識しているので、多くの社会教育主事を配置し、各課で目指す具体的なカリキュラムを作成し、実行していく事を望みます。	本施設の組織体制としては全体の統括者として施設長を置き、そのうえで図書館司書・学芸員などを配置することを検討しています。今後は本施設と社会教育主事や関係各課との連携を図りながら各種事業に取り組みできる仕組みづくりを考えていきたいと思ひます。
13	この規模の、高齢化が進んだ市町村にこれだけの費用をかけた施設が必要でしょうか？ 大きい施設を作れば、維持費や人件費もかかり、長期的みても町の身の丈に合う構想とは考えがたいです。 窪川には今と同じ規模の図書館を、十和には振興局内に図書室を望みます。 個人的に紙の本が廢れることは望みませんが、今後ますます電子書籍化が進む中、多くの本を所蔵する大きな建物のニーズは減るのでは？ 比較的新しい廢校舎を利用するのをもひとつの手だと思います。 建物や人件費にかかるお金を削減して、週に数回、1日1往復でもいいので、シャトルバスを運航していただき、多くの四万十町民が利用できるように願ひます。空想のような計画ではなく、実際にどのくらいニーズがあるのか、費用対効果は十分に得られる施設なのか、お金をかける以上、数字でもっとしっかり示してください。	本施設は図書館機能、美術館機能、展示機能、コミュニティー機能を有した施設であり、そのことが町が抱えている課題に対しても価値があると考えています。 そして、四万十町の文化の拠点となる施設としての機能を發揮するためには、この規模の施設をつくる必要があると考えています。 また、施設に関する評価についてもそのあり方の妥当性や効果を把握し、適切に評価し、常に改善していく仕組みづくりについて今後サービス計画等において検討し、その評価や実際の数字についても公開していきたいと考えています。 十和地域の図書館分館ないしは分室の開設については重要な検討課題と考えており、今後検討していきますのでご協力願ひします。
14	四万十町文化施設は、旧町役場跡地に建設予定となっているが、この場所は四国88ヶ所37番札所岩本寺にほど近い。これほど札所に近い図書館は他の自治体に存在せず、また半平旅館など文化・観光施設もあるので、交流の場。地域のゾーニングの視点からも活用するのが良いのではないかと。 具体的には、 1.構造的に図書館と岩本寺の間のアクセスを良くし、誘導・交流しやすくする。 2.「四国八十八箇所霊場と遍路道」世界遺産登録推進協議会に積極的に関わる。(署名や関連イベントの開催、事務局支部の設置) 3.四国遍路資料の充実(郷土資料、宗教、民俗学、文化人類学、遍路を目的としたガイドブック、遍路体験記等) 4.大学等との連携(高野山大学大学院通信教育部との連携や大学図書館との相互貸借協定など) 5. 札所の存在する図書館との連携(遍路に関する資料の不費極的な情報交換、イベントの共同開催等) が考えられる。	いただいたご意見を今後のサービス計画等の参考にさせていただきますのでご協力よろしく願ひします。
15	新しい文化施設は生涯学習の拠点となる存在でなくてはならない。生涯学習は、身近な存在である他者や世界の多様性について学び、将来に拓かれた指針を持ち社会に関わるという、地域の産業振興、文化の継承発展、生活福祉の向上の為に必要な視点や進取の姿勢を学ぶ、欠かす事のできないものである。そこで、地元の大学である高知大学、高知公立大学はじめ放送大学、通信制大学等と連携。協定し、高度な学習・研究資料や講演会などを住民に提供できるよう、大学図書館との相互貸借や教員の講演会や学生によるイベントを積極的に行う事が望まれる。	いただいたご意見を今後のサービス計画等の参考にさせていただきますのでご協力よろしく願ひします。
16	この施設は窪川地区に建てられるとはいえ町民共有の財産であることには変わらないので、十和・大正地域にも身近な存在であるよう、資料のより定期的な巡回(本館で行うようなテーマ展示も含む)や巡回ポイントの増設(理想をいえば町じゅう図書館の様に)、文化施設主催の出張講演・講習会・イベントを行う事が必要である。	いただいたご意見を今後のサービス計画等の参考にさせていただきますのでご協力よろしく願ひします。
17	地域の小中学校・保育園、こども園のみならず高校も含んだ子どもたちに対する読書推進活動の推進。特に中高生に対しての取組みは、子どもたちの将来に個人的に影響するだけでなく町全体の未来にも大きく関わるものになる。これは、学校だけでなく公設塾等の人材育成に関わる機関等とも積極的に連携する事が必要であろう。	いただいたご意見を今後のサービス計画等の参考にさせていただきます関係各課とも連携しながら検討していきますのでご協力よろしく願ひします。
18	文化施設の運営を永続的にを行うには、年々出版される資料に対してや、更新される情報環境に対応できる設備と、専門性を持った職員がその任に当たるにおいて安定性を保障されるにふさわしい人員数と待遇を実現する為の予算が必要である。現在の住民が文化にアクセスする為の権利を保障し、また今後の未来への投資として、基本的に一般財源で相応の額の配分を保障する事が必要である。	今後の運営方針等の参考にさせていただきます。

5. 公表案の修正箇所

意見公募手続きにより提出された意見による基本計画内容の修正はありません。
ただし、記述内容の補足及び内容をわかりやすくするため、以下の点について修正を加えました。

No.	公表案の修正箇所	修正内容
1	・表紙と「はじめに」のページ間 ・全体的に	・目次を入れる ・段落の文章のはじめ一字空白で始める